

教 育 研 究 業 績

2022 年 5 月 1 日

氏名 井上 忠典

学位 : 教育学修士 (心理学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
臨床心理学・教育心理学	心理的障害, 心理療法, 教育相談, 生涯発達, 親子関係	
主要担当授業科目	(学部) 心理学的支援法(心理療法 A)、青年心理学、臨床心理学セミナー (大学院) 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)、心理学研究法演習、臨床心理学演習 I・II、臨床心理基礎実習 I、臨床心理実習 I・II、心理実践実習 I・II・IV・A・B・C	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1) スペース・コラボレーション・システム(SCS)を用いた遠隔共同講義の実施 (「教育臨床」責任者)	平成 11 年 4 月 ～2 月	スペース・コラボレーション・システム(SCS)を用いた遠隔共同授業のうち、「教育臨床」を責任者として開催した。全国 8 つの国立大学が参加し、各大学の教員が持ち回りで年 9 回の講義を行い、各大学の大学院生が受講して、意見交換を行った。(上越教育大学)
2 作成した教科書・教材 1) 図でよむ心理学—生徒指導・教育相談— 2) 臨床心理学	平成 3 年 11 月 平成 10 年 4 月	IV部 13 章「心の悩みを援助する—カウンセリング」を分担執筆。カウンセリングについての理解を促すために図表を中心にして、カウンセリングの定義、適応の問題などについて解説した。(全 pp. 176, 担当部分 pp. 133-144) 1 7 章「精神分析療法」を分担執筆。臨床心理学についてのテキストとなる著書で、そのうち「精神分析療法」について解説した。精神分析療法の特質や原理、その治療対象や技法について説明した。(全 pp. 247, 担当部分 pp. 125-129)
3) はじめて学ぶ人の臨床心理学	平成 15 年 4 月	第 2 章第 2 節「精神分析」を分担執筆。臨床心理学の入門書で、そのうち「精神分析」について解説した。精神分析の原理と治療法としての精神分析療法、そして現在に至る歴史的な流れについて説明した。(全 pp. 285, 担当部分 pp. 25-32)
4) 臨床心理学からみた生徒指導・教育相談	平成 16 年 4 月	第 1 0 章「スクールカウンセラーの利用を考える」を分担執筆。学校における生徒指導・教育相談について書かれた著書で、そのうちスクールカウンセラーの役割について論じた。(全 pp. 222, 担当部分 pp. 169-184)
5) スタンダード臨床心理学	平成 27 年 8 月	7 章「催眠とそこから生まれた療法」を分担執筆。臨床心理学のテキストとなる著書であり、心理療法の源流である催眠について概説し、そこから派生した心理療法として、自律訓練法、ブリーフセラピー、イメージ療法について説明した。(全 pp. 336, 担当部分 pp.)

<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>1) 令和2年度学生による授業評価</p>	<p>令和2年7月</p>	<p>学部「心理学的支援法（心理療法A）」についての学生による授業評価アンケートで、全般的に平均よりもやや低い評価となった。一方、大学院「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）」についての学生による授業評価アンケートで、全般的に平均よりもやや高い評価となった。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) 香川大学免許法認定公開講座</p> <p>2) 高知大学教育実践センター・高知県教育センター研修講座</p> <p>3) 高知市教育研究所教育相談講座</p> <p>4) 高知県公立高等学校保健主事研究協議大会</p> <p>5) 高知県青少年育成市町村民会議研修会</p> <p>6) 高知県専修学校各種学校連合会新任教員研修</p> <p>7) 社会教育主事講習</p> <p>8) 高知産業保健推進センター産業保健セミナー</p> <p>9) 埼玉県総合教育センター学校カウンセリング中級研修会</p> <p>10) 流山市教育委員会不登校対応研修会</p> <p>11) 新潟県教育センター教職12年経験者研修</p> <p>12) 船橋市小中特別支援学校教務主任研究協議会</p> <p>13) 日本産業カウンセラー協会東京支部全実技指導者研修</p> <p>14) 日本産業カウンセラー協会東関</p>	<p>平成14年8月</p> <p>平成15年3月</p> <p>平成15年5月</p> <p>平成16年2月</p> <p>平成16年11月</p> <p>平成17年7月</p> <p>平成17年7月</p> <p>平成18年3月</p> <p>平成18年6月</p> <p>平成19年8月</p> <p>平成19年7月</p> <p>平成22年9月</p> <p>平成26年8月</p> <p>平成27年10月</p>	<p>香川大学、高知大学、鳥取大学が共同して、香川大学教育学部において教員の専修免許状取得のための遠隔授業の免許法認定公開講座を実施し、そのうち「教育臨床心理学特論」を担当した。</p> <p>教員を対象とした学校カウンセリング・ワークショップにおいて、「カウンセリングの理論と実際」について講義と実習を行った。</p> <p>教員を対象とした教育相談講座において、「カウンセリングの理論と演習」について講義と実習を行った。</p> <p>公立高校保健主事の研究協議会において、「高校生心の問題を考える」というテーマで講演を行った。</p> <p>青少年育成高知県民会議の主催する研修会において、その関係者に対して「思春期の子どものこころ」というテーマで講演を行った。</p> <p>専修学校等の新任教員に対して「青年心理学」について講演を行った。</p> <p>四国地域内の教員を対象として「発達課題と生涯学習」というテーマで講習を行った。</p> <p>企業の産業保健担当者を対象に「心とからだのリラックスー自律訓練法ー」をテーマにして講演と実習を行った。</p> <p>教員を対象として「精神分析概論」についての講演を行った。</p> <p>教員を対象にした心の問題を抱える児童・生徒についての事例研修会において、アドバイザーとして参加した。</p> <p>教員を対象にして「学校で生かす臨床心理学」というテーマで講演した。</p> <p>教員を対象にして「教師のためのメンタルヘルス」というテーマで講演した。</p> <p>産業カウンセラーの実技指導者を対象にして、「評価について整理するー実技評価は難しい？ー」というテーマで講演した。</p> <p>産業カウンセラー有資格者に対して「青年期における対人関</p>

東支部会員研修		係のあり方「今どきの若者は？」というテーマで講演した。
15) 日本産業カウンセラー協会東関東支部会員研修	平成28年2月	産業カウンセラー有資格者に対して「リラクゼーションを体験してみようーストレスとリラクゼーションー」というテーマで実習を含む講演を行った。
16) 日本産業カウンセラー協会東京支部産業カウンセラー養成講座指導者全体研修	平成28年12月	産業カウンセラー養成講座指導者に対して「産業カウンセラーとしての倫理について」というテーマで講演を行った。
13) 日本産業カウンセラー協会東京支部全実技指導者研修	令和2年9月	産業カウンセラーの実技指導者を対象にして、「実技能力を評価するー育てるための評価を学ぶー」というテーマで講演した。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格, 免許		
1) 臨床心理士	平成6年3月	第6082号(日本臨床心理士資格認定協会)
2) 2級キャリアコンサルティング技能士	平成29年3月	第16S17408906号(厚生労働省)
3) 公認心理師	平成31年2月	第19925号(文部科学省・厚生労働省)
4) 1級キャリアコンサルティング技能士	令和3年3月	第*****号(厚生労働省)
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 高知県スクールカウンセラー連絡協議会	平成14年6月	高知県のスクールカウンセラー及び担当教員の連絡協議会において、「実践発表」としてスクールカウンセラーとしての事例を発表した。
2) 高知県スクールカウンセラーガイドブック	平成15年3月	学校においてスクールカウンセラーを有効に活用するために、学校及び教育委員会として留意すべき点を示したガイドラインの作成に参加した。高知県教育委員会の主催。
3) 高知市の教育改革を進める会委員	平成15年4月～平成18年3月	高知市の教育改革を進めるために基本的な方針を検討する委員会の委員として参加した。高知市教育委員会の主催。
4) 取手市学校問題解決サポートチーム・チーム員	平成20年4月～平成29年3月	取手市の学校教育の現場において発生する学校運営上の諸問題に対して、専門的な見地からの指導、助言及び援助を行う組織であり、臨床心理士・スクールカウンセラーの立場で参加した。取手市教育委員会主催
5) (社)日本産業カウンセラー協会実	平成22年4月～	実技試験免除のために、実技能力評価について、その方法や

技能力評価委員会委員	現在	基準などの検討を行い、その実施を行う。東京支部担当。
6) (社)日本産業カウンセラー協会講師・カウンセラー推薦委員会審査委員	平成27年4月～平成29年3月	実技指導研修のグループ・リーダーを協会本部に推薦するために、審査を行う。東京支部担当。
7) 国家資格キャリアコンサルタント試験試験委員	平成28年5月～現在	試験問題の作成、及び面接試験の試験委員を担当。
4. その他		

著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 心身症(精神科MOOK24)	共著	平成1年10月	金原出版	共著: 武正建一, 井上忠典ほか29名 「心身症に対する自律訓練法・筋弛緩法」の章を分担執筆。弛緩について, ①筋肉の弛緩, ②内臓の弛緩, ③心理的弛緩, ④意識水準の低下のそれぞれの側面から記述した。これらの弛緩が, 心身症の発症に関わるストレス過程に対してどのような働きをするのか説明した。また, 心身症に対する心理療法に用いられることの多い弛緩法として, 自律訓練法と筋弛緩法を取り上げ, それぞれの概要, 心身症への適用及び技法を解説した。 執筆 pp. 109-116
2. 図でよむ心理学—生徒指導・教育相談—(再掲)	共著	平成3年11月	福村出版	共著: 佐々木雄二, 井上忠典ほか15名 IV部13章「心の悩みを援助する—カウンセリング」を分担執筆。カウンセリングについての理解を促すために図表を中心にして, ①カウンセリングの定義, ②適応の問題, ③カウンセリングが用いられる分野, ④面接過程, ⑤クライアントとカウンセラーの人間関係, ⑥カウンセラーに必要な基本的態度, ⑦面接技法, ⑧「わかる」ための方法, について解説した。 執筆 pp. 133-144
3. 自分に気づき自分を変える	共訳	平成4年6月	日本実業出版社	共訳: 佐々木雄二, 井上忠典ほか8名 自分の人生や仕事, 人間関係をもっと積極的に主体的に管理するためのトレーニング・プログラムを紹介した書の翻訳である。人生の中で直面する新しい問題や状況にどう対処したらよいか, そして最善の道を見つけるにはどうしたらよいかを考える方法が示されている。「KEY原理」や「セルフマネジメント」を挙げながら説明し, 練習課題として「ワ

4. 心理学がわかる事典	共著	平成6年2月	日本実業出版社	<p>ーク」を設けて、課題を実際に行えるように構成されている。 原著者名：Roger A. Straus , 原題名：Creative Self-Hypnosis 執筆 pp. 301-341</p> <p>共著：南博, <u>井上忠典</u>ほか8名 11章「精神異常と臨床心理学」を分担執筆。心理学について一般の読者向けに編集された著書で、そのうち「こころの病気」について概説した。臨床心理学と心理臨床・不応と治療・自我同一性ところの問題・精神鑑定と犯罪・精神障害の分類・神経症・人格障害・精神病・心身症・薬物依存・アルコール依存・モラトリアム人間・中年期クライシス・老化とボケ・自殺といった項目について解説した。 執筆 pp. 261-284</p>
5. 事例発達臨床心理学辞典	共著	平成6年4月	福村出版	<p>共著：高野清純, <u>井上忠典</u>ほか89名 「事例研究」「不安」「乱暴な子」の3項目を執筆し、それぞれの項目について概説を行った。</p>
4. 学校カウンセリングの考え方・進め方 (実践ハンドブック2)	共著	平成6年6月	教育開発研究所	<p>共著：松原達哉, <u>井上忠典</u>ほか79名 IIIの一部「系統的脱感作法」を分担執筆。生徒指導・教育相談を学習する教科書として編集された著書で、そのうちの理論編と技法編の「系統的脱感作法」について解説した。この技法は行動療法の一つであり、逆制止と脱感作の原理を応用している。手順としては、弛緩訓練・不安階層表の作成・脱感作の3つの段階からなる。また、中学生のスピーチ・フラインクの例を挙げて、具体的な適用方法について説明した。 執筆 pp. 214-215</p>
5. 学校カウンセリング辞典	共著	平成7年7月	金子書房	<p>共著：真仁田昭, <u>井上忠典</u>ほか111名 「虚栄心」「向性」「自己受容」「自己中心性」「自己理解」「嫉妬」「欲求不満」の8項目を執筆し、それぞれの項目について概説を行った。</p>
6. 保健婦のためのメンタルヘルス・カウンセリング実践マニュアル	共著	平成10年3月	全国社会保険協会連合	<p>共著：河野友信, <u>井上忠典</u>ほか12名 精神保険福祉センターの保健婦向けに編集された著書であり、そのうち「カウンセリング」について解説した。特に、「来談者中心療法」「精神分析療法」「交流分析」について説明した。 執筆 pp. 14-24</p>
7. 臨床心理学 (再掲)	共著	平成10年4月	保育出版社	<p>共著：小林芳郎, <u>井上忠典</u>ほか32名</p>

8. ゆとりのある学校の創造	共著	平成 10 年 10 月	教育開発研究所	<p>17章「精神分析療法」を分担執筆。精神分析療法の特質や原理, その治療対象や技法について説明した。 執筆 pp. 125-129</p> <p>共著: 新井郁男, <u>井上忠典</u>ほか 38 名 3章の一部「ゆとりある子ども間関係をつくるリーダーシップ—中学校」を分担執筆。グループ・エンカウンターを利用した子ども間関係づくりについて解説した。具体的なエクササイズ (プログラム) を提示しながら, ファシリテーターとしての教師がどのような点に注意しながらリーダーシップを発揮すればよいのか, ということについて説明した。 執筆 pp. 230-235</p>
9. 心理学を学ぶ, 活かす	共著	平成 11 年 1 月	日本実業出版社	<p>共著: 杉原一昭, <u>井上忠典</u>ほか 23 名 2章の一部「臨床心理学」を分担執筆。「精神分析」「クライエント中心療法」「行動療法」といった項目について説明した。 執筆 pp. 22-28</p>
10. 子どもの心理臨床	共著	平成 11 年 4 月	北樹出版	<p>共著: 弘中正美, <u>井上忠典</u>ほか 13 名 第9章「心理臨床の現場」を分担執筆。子どもを対象とした心理療法について書かれた著書で, そのうちさまざまな心理臨床の現場について紹介し, そのような仕事を選択する際の基準や進路について解説した。 執筆 pp. 198-204</p>
11. 社会性と感情の教育—教育者のためのガイドライン 39—	共訳	平成 11 年 12 月	北大路書房	<p>共訳: 小泉冷三, <u>井上忠典</u>ほか 5 名 「社会性と情動の学習 (SEL) の必要性」を分担翻訳。本書は, 社会性と情動の教育 (SEL) について, 単一の問題だけを対象とせず, しかも情報提供に偏らない, 総合的で調和のとれたプログラムづくりのためのガイドラインを提供している。この章では, SEL の概念やその必要性について, いくつかの観点から説明を加えている。 原著者名: Maurice J. Elias et al., 原題名: Promoting Social and Emotional Learning 執筆 pp. 1-21</p>
12. 自律訓練法 (現代のエスプリ 396)	共著	平成 12 年 7 月	至文堂	<p>共著者: 笠井仁, <u>井上忠典</u>ほか 19 名 「教育領域における自律訓練法の適用」を分担執筆。教育領域における自律訓練法の適用について論じた。学校教育の場での適用を想定して, 学級集団全体と児童生徒個人のそれぞれの実施法と指導</p>

13. はじめて学ぶ人の臨床心理学 (再掲)	共著	平成 15 年 4 月	中央法規	<p>上の留意点について説明した。 執筆 pp. 158-166</p> <p>共著：渡邊映子, <u>井上忠典</u>ほか 34 名 第 2 章第 2 節「精神分析」を分担執筆。 精神分析の原理と治療法としての精神分析療法, そして現在に至る歴史的な流れについて説明した。 執筆 pp. 25-32</p>
14. 臨床心理学からみた生徒指導・教育相談 (再掲)	共著	平成 16 年 4 月	ブレーン出版	<p>共著：川島一夫, <u>井上忠典</u>ほか 10 名 第 1 0 章「スクールカウンセラーの利用を考える」を分担執筆。学校における生徒指導・教育相談について書かれた著書で, そのうちスクールカウンセラーの役割について論じた。学校内におけるその位置づけ, 児童生徒・保護者・教師へのアプローチ, 校内研修や学校内外との連携といった事項に言及した。 執筆 pp. 169-184</p>
15. 心のケアのためのカウンセリング大事典	共著	平成 17 年 9 月	培風館	<p>共著：松原達哉, <u>井上忠典</u>ほか 91 名 第 2 部 3 「行動療法・認知行動療法の理論」を分担執筆。行動療法, 認知行動療法, 認知療法, 論理療法について, その成り立ちや原理, 臨床上の技法などについて説明した。 執筆 pp. 62-71</p>
16. 発達臨床教育相談マニュアルーアセスメントと支援の実際	共著	平成 18 年 3 月	川島書店	<p>共著：杉原一昭, <u>井上忠典</u>ほか 60 名 「境界性人格障害」「自己愛人格障害」「回避性人格障害」「自己愛人格目録 (NPI)」「ボーダーライン・スケール (BSI 日本版)」の 5 項目を執筆し, それぞれの項目について概説を行った。</p>
17. 図で理解する生徒指導・教育相談	共著	平成 22 年 10 月	福村出版	<p>共著：佐々木雄二, <u>井上忠典</u>ほか 19 名 IV 部 13 章「心の悩みを援助するーカウンセリング」を分担執筆。カウンセリングについての理解を促すために図表を中心にして, ①カウンセリングの定義, ②適応の問題, ③カウンセリングが用いられる分野, ④面接過程, ⑤クライアントとカウンセラーの人間関係, ⑥カウンセラーに必要な基本的態度, ⑦面接技法, ⑧学校でのカウンセリング, ⑨構成的グループ・エンカウンターについて解説した。 執筆 pp. 131-142</p>
18. スタンダード臨床心理学 (再掲)	共著	平成 27 年 8 月	サイエンス社	<p>共著：杉江征, <u>井上忠典</u>ほか 15 名 7 章「催眠とそこから生まれた療法」を分担執筆。臨床心理学のテキストとなる</p>

19. 公認心理師技法ガイド	共著	平成 31 年 3 月	文光堂	<p>著書であり、心理療法の源流である催眠について概説し、そこから派生した心理療法として、自律訓練法、ブリーフセラピー、イメージ療法について説明した。 執筆 pp.</p> <p>共著：下山晴彦, <u>井上忠典</u>ほか??名 第3章 2-C-3. 「イメージ療法」を分担執筆。公認心理師に必要な知識と技法を体系的に、より実践的に紹介した著書。イメージ療法の概要と具体的な技法などについて解説した。 執筆 pp.</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1. 大学生における自我同一性と分離個体化の関連について</p> <p>2. 『ものが欲しい』と訴える不登校中学生の事例ーその両親との面接を中心にー</p> <p>3. 気管支喘息患者への箱庭療法の試みー小児期発症の青年期患者を対象としてー</p> <p>4. 親に対して賠償請求を行った不登校高校生の事例ー親からの心理的分離の過程についてー</p>	<p>共著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>単著</p>	<p>平成 4 年 2 月</p> <p>平成 4 年 3 月</p> <p>平成 4 年 6 月</p> <p>平成 5 年 3 月</p>	<p>筑波大学心理学研究 第 14 号 pp. 159-169</p> <p>筑波大学臨床心理学論 集 第 7 集 pp. 11-21</p> <p>呼吸器心身症研究会誌 第 8 巻第 2 号 pp. 111-114</p> <p>筑波大学臨床心理学論 集 第 8 集 pp. 57-64</p>	<p>共著：井上忠典, 佐々木雄二 自我同一性と分離個体化の関連を明らかにするために、大学生を対象にそれらに関する質問紙を実施して、自我同一性によって分離個体化の様相がどのように異なるのかについて検討した。その結果、同一性達成地位、権威受容地位、モラトリアム地位、同一性拡散地位の各地位について、分離個体化の様相が明らかにされた。</p> <p>男子中学生の不登校をめぐって、本人とその両親との面接過程をまとめた事例報告である。本人は、学業面で理想とする基準に達することができないという葛藤が強くなると、ものを欲しがってだだをこねるといった行動を示した。本事例を通じて、思春期に非現実的な万能感が肥大化した子どもに対して、自己愛を認めながらも万能感を現実的に処理していくことを身につけさせる父親の役割と、それを援助するセラピストの役割について考察した。</p> <p>共著：井上忠典, 姫野友美ほか 4 名 小児期に発症し、青年期まで遅延している気管支喘息患者に対して、箱庭療法を試みた。実施した症例の中から 3 例を取り上げ、その適用の際に生じる問題点について検討した。その結果、非言語的にも感情表現が抑制されていることから、自由に制作できるような受容的な態度と、箱庭に投影された患者の心理状態を読み取る治療者の能力が必要とされることなどが示唆された。</p> <p>引っ越しを契機として心因性の脱毛から不登校になりその原因が本人の意向を無視して引っ越しを進めた両親にあるとして、両親に賠償請求を行った高校</p>

<p>5. 想像活動への関与に関する研究：測定尺度の作成と妥当性の検討</p>	<p>共著</p>	<p>平成6年9月</p>	<p>催眠学研究 第38巻2号 pp.9-20</p>	<p>生との面接過程をまとめた事例報告である。両親はその賠償請求を認め、その後本人は大学検定のための予備校に通って、大学検定を受けるに至った。それと同時に、面接も中断した。本事例を通じて、青年期における親からの心理的分離の過程を概観するとともに、その過程でセラピストの果たすべき役割について考察した。</p> <p>共著：笠井仁，井上忠典 体験様式の一つの次元を反映したパーソナリティ特性として、「想像活動への関与」の程度を測定する質問紙を作成し、その妥当性を検討することを目的とした。質問紙は、Hilgard(1970)の事例研究で得られた逐語記録にもとづいて、9領域2項目ずつで構成した。大学生を対象にこの質問紙を実施したところ、一次元からなる高い信頼性をもつ尺度であることが示された。さらに、イメージの鮮明性や解離性体験との関係を分析し、十分な妥当性が得られた。</p>
<p>6. 成人気管支喘息患者への箱庭療法の適用－患者の特徴に応じた箱庭療法の適用方法について－</p>	<p>共著</p>	<p>平成6年12月</p>	<p>呼吸器心身医学 第11巻第2号 pp.121-125</p>	<p>共著：鈴木常元，井上忠典ほか7名 成人気管支喘息患者を3つの性格タイプに分類し、それぞれのタイプの患者に箱庭療法を適応する際の面接の進め方について、事例を挙げながら考察した。 ①アレキシサイミア・タイプでは、感情表現が乏しく、箱庭における自己表現も未熟なので、その意味を治療者が感じ取ることが重要である。②自己愛タイプは、空想的な世界に引きこもりがちであるが、箱庭をとおしてその世界とのつながりを持つことが重要である。③神経症タイプは、箱庭から自分の力で考えようとするので、その自己探求を援助することが面接の中心となる。</p>
<p>7. 大学生における親との依存－独立の葛藤と自我同一性の関連について</p>	<p>単著</p>	<p>平成7年3月</p>	<p>筑波大学心理学研究 第17号 pp.163-173</p>	<p>大学生を対象として、親との依存－独立の葛藤と自我同一性の関連を検討することを目的にして、まず、その葛藤を調べるための質問紙を作成し、次に、自我同一性地位によってその葛藤の様相がどのように異なるのかについて検討した。その結果、同一性達成地位・権威受容地位・積極的モラトリアム地位・同一性拡散地位のそれぞれの特徴を記述することができ、親との葛藤を依存欲求尺度と独立欲求尺度の2つの尺度から捉えることの有効性が確認された。</p>

8. 視覚的自己イメージに表れる両親との関係についての探索的研究	単著	平成8年3月	筑波大学心理学研究 第18号 pp.175-184	依存欲求・独立欲求・葛藤を中心とした親との関係が視覚的自己イメージにどのように表れるのか、特に自己イメージの印象性を指標として探索的に調べることを目的とした。大学生30名を被験者として、「親との依存・独立・葛藤尺度」を実施した後に個別に実験を行った。親との場面を含む3つの場面を順次想起させ、「自己イメージ印象性尺度」に評定させた。2つの尺度から相関を中心に分析するとともに、依存欲求・独立欲求・葛藤によって類型に分類し、類型ごとに自己イメージの様相を記述した。
9. イメージ分析療法における「イミ」を用いた導入法	単著	平成8年10月	催眠学研究 第41巻1・2号 pp.46-51	イメージ分析療法における「イミ」を用いた導入法の手続きを説明し、事例をもとにその臨床的な意義について検討した。その意義として、指定イメージからの導入と異なり、その時点で患者自身が受け入れることのできるイメージを浮かべることができること、「ひっかかり」に反映された患者の問題がイメージに象徴的に置き換えられ、それを扱うことによって治療が進むことなどが挙げられた。
10. 青年期における親との依存-独立の葛藤の発達の变化	単著	平成11年9月	上越教育大学研究紀要 第19巻第1号 pp.277-288	青年期における親との関係、すなわち依存欲求・独立欲求・葛藤を測定する尺度を作成し、これらが中学生・高校生・大学生の学校段階によってどのように発達的に変化するのか、検討した。その結果、両親に対して、女子が男子よりも依存欲求が高く、独立欲求が低かった。また独立欲求には学校段階での違いはないが、依存欲求は、中学生では母親よりも父親に対して高く、高校生以降では逆転していた。葛藤は、中学生・高校生に比べて大学生で低下し、女子の場合、高校生の時期から母親に対する葛藤が低下した。
11. 教師によるカウンセリングに関する研究	共著	平成11年9月	上越教育大学研究紀要 第19巻第1号 pp.251-260	共著：田中輝美，井上忠典，勝倉孝治 教師に対する効果的なカウンセリング指導を行うために、教師が教師自身によって行われるカウンセリングについてどのような考えを持っているのか把握することを目的として、小・中・高等学校の教師に対して質問紙調査が実施された。その結果、多くの教師が教師によるカウンセリングに肯定的であること、教師によるカウンセリングは日常的に児童生徒に接しているなどの利点があること、その一方で教師とカウンセラーの役割間葛藤があること、などが確認さ

12. 教員とスクールカウンセラーの機能的な連携のための一考察	共著	平成 13 年 12 月	筑波大学学校教育論集 第 24 巻 pp. 1-7	共著：田中輝美, 井上忠典 近年、文部科学省は公立学校へのスクールカウンセラーの配置を進めている。だが、教員とスクールカウンセラーの連携に未だに多くの問題を抱えている。本研究では、教員とカウンセラー双方の視点からのディスカッションを通じて、両者の連携を機能的にするために検討すべき点を明らかにすることを目的とした。その結果、目標や情報の共有が重要であるとされ、そのために、取り組むべき課題の明確化、スクールカウンセラーの学校組織内の位置づけが必要であると指摘された。
13. 大学生における親の養育態度と親との依存-独立の葛藤の関連	単著	平成 14 年 3 月	高知大学教育学部研究報告 第 62 号 pp. 45-49	大学生における親の養育態度と親との依存-独立の葛藤の関連を検討することを目的として、大学生を対象として親子関係診断尺度と親との葛藤尺度を実施した。その結果、子どもに受容的に接しながら、同時にその自律性を尊重することが、子どもに過剰な葛藤を引き起こさないために重要な養育態度であることが明らかとなった。
14. テスト不安の類型による自律訓練法導入時の体験の違い	単著	平成 17 年 3 月	高知大学教育学部研究報告 第 65 号 pp. 1-6	テスト不安への対処を主要な目的として高校 3 年生 90 名を対象に自律訓練法を実施して、テスト不安の類型によって自律訓練法の導入時の体験の違いがみられるのかどうかを検討することを目的とした。その結果、テスト不安の類型による自律訓練法の体験の違いはみられなかったが、テスト不安の緊張感と自律訓練法によるリラックス感の間に正の相関がみられた。これらの結果をもとに、学校教育における自律訓練法の適用についての研究課題が示された。
15. ミニカウンセリングを用いた臨床心理実習についての検討	共著	平成 20 年 3 月	東京成徳大学臨床心理学研究 第 8 号 pp. 11-20	共著：井上忠典, 勝倉孝治 臨床心理士養成の大学院で実施されている「臨床心理基礎実習」において、面接の基本的技術の学習を目的としてミニカウンセリングを用いた実習を行った。25 名の参加者が 28 セッションに参加した。全セッション終了後に、カウンセラー役・クライアント役の体験、グループ討議への参加体験などの問いに自由記述で回答させた。その回答をもとに分析を行い、この実習の問題点と課題について考察した。
16. 時間的展望と抑うつ傾	共著	平成 27 年 3 月	東京成徳大学臨床心理	共著：斎藤貴彦, 井上忠典

向の関係について一統制の所在との関連性から一			学研究 15号 pp. 75-82	時間的展望と統制の所在と抑うつの関連性を調べることを目的として、290名を対象に質問紙調査を行った。構造方程式モデリングを用いて分析を行ったところ、統制の所在と抑うつが時間的展望への影響が見られた。仮説とは異なる結果となり、他の要因を考慮する必要性が示唆された。
17. 催眠出産が出産に与える影響	共著	平成29年3月	東京成徳大学臨床心理学研究 17号 pp. 184-187.	共著：北条亜季, <u>井上忠典</u> 自己催眠、他者催眠を応用した催眠出産法を利用し出産を行った。妊娠期、分娩初期、分娩末期のそれぞれの時期の特徴について考察を行った。
18. 催眠誘導時の呼吸描写ペーシングが主観的体験に与える影響	共著	平成30年3月	東京成徳大学臨床心理学研究 18号 pp. 71-78.	共著：北条亜季, <u>井上忠典</u> 催眠誘導において呼吸を描写するペーシングを暗示に利用した際の被験者への主観的な体験への影響を明らかにすることを目的として、22名の被験者に実験を行った。主観的な体験項目の「被動感」「自動感」において、一定条件の方がランダム条件よりもこれらの感覚を強く感じられるという結果になった。
19. 自己愛が基本的心理欲求及び動機づけに与える影響	共著	平成31年3月	東京成徳大学臨床心理学研究 19号 pp. 139-149.	共著：佐藤伸之, <u>井上忠典</u>
20. 自我境界のあいまいさと創造的退行の関連について-創造的退行尺度の作成-	共著	平成31年3月	東京成徳大学臨床心理学研究 19号 pp. 85-92.	共著：山木 涼, <u>井上忠典</u>
21. 親密な友人関係における被受容感について	共著	令和2年3月	東京成徳大学臨床心理学研究 20号 pp. 76-85.	共著：前田啓人, <u>井上忠典</u>
(その他) 1. 森田療法と自律訓練法との比較検討：とくに森田の「あるがまま」と自律訓練法の受動的注意集中 (passive concentration), 受動的態度 (passive attitude) との関係について	共著	平成2年3月	メンタルヘルス岡本記念財団 研究助成報告集 第1号 pp. 25-28	共著：佐々木雄二, <u>井上忠典</u> ほか4名 森田療法における「あるがまま」と自律訓練法における「受動的注意集中」の類似点と相違点について比較検討した。①それぞれの特徴を挙げての比較, ②森田療法への自律訓練法の導入についての考察, ③自律訓練法への森田療法的視点の導入についての症例研究と調査研究, ④自律訓練法開始時にみられる「とらわれ」を克服する方法をめぐる言語公式についての実験研究, ⑤自律訓練法の導入時に与える教示の違いのもたらす効果についての実験研究について報告した。

2. 教育相談に関する教師の力量形成	単著	平成9年3月	上越教育大学平成8年度教育研究学内経費実績報告書「教師の力量形成に関する基礎的研究」 pp. 23-32	教育相談に関する教師の力量形成について概観した論文である。学校教育における教育相談の現状、教育相談に求められる資質と力量、力量形成のための方法について論じた。
3. 中学校教師における生徒の問題行動兆候の認識に関する調査研究	共著	平成12年3月	上越教育大学平成11年度客員研究員研究報告 pp. 1-6	共著：神村栄一, 井上忠典 中学校教師が持つ生徒の問題行動の兆候に対するスキーマについての基礎的な資料を集めることを目的として、中学校教師に14項目の兆候の中から危険な兆候と思われるものを順に3つ選択させた。その結果、「身なり等の校則違反」「学校外でのトラブル」が最も高く、逆に選択率が低かったのは、「対教師依存反応」「学力の低さ・理解の悪さ」などであった。非社会的問題行動よりも反社会的問題行動に対して、多くの教師が「危うさ」を感じていることが明らかになった。
4. グループワークによる親密性と自尊感情の変化に関する研究—教員養成系大学の大学生を対象として—	単著	平成12年3月	上越教育大学「心の教育」研究会「教職課程における教育内容・方法の開発研究」平成10・11年度文部省委嘱開発研究事業報告書 pp. 56-62	教員養成系大学の授業で、グループワークによる実習を実施することにより、大学生実習者の他者に対する親密性や自尊感情がどのように変化するのか、検討することを目的とした。「対人関係地図」というエクササイズを大学生に行い、その前後に親密性と自尊感情尺度実施し、事後に自己開示度と他者からの受容度を回答させた。その結果、実習によって親密性と自尊感情はともに高まるが、自己開示度や他者からの受容度が高い者ほど、その指標がより高くなることが明らかとなった。